

当園ではこの度、平成 24 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直すいい機会となり、今後続けていくことにより、より一層幼児期の育ちについて責任を持つことができると思われます。今年度の学校関係者評価及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 身体を強く育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 感情を豊かに、けじめある態度を育てる。(音楽リズム、造形活動を通して)
3. 自ら創意工夫する態度を育てる。(数と言葉の遊び、造形活動を通して)
4. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会・言葉を通して)
  - ・「おはようございます」という 明るい心
  - ・「はい」という 素直な心
  - ・「すみません」という 反省の心
  - ・「わたしがします」という 積極的な心
  - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
  - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

## II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身に付けることを重点項目とする。また、自園の長所と短所をしっかりと認識し、特色を活かした教育を行っていくこと。園内研修の充実に努める。異年齢交流の充実に努める。

## III. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思いなどを共有することができているか。またその為にどのような取り組みがなされているか。	A	園の教育方針については、終礼の際に全員で唱和し、日々の保育の活動を考える際に教育方針が頭の中で浮かんでくるぐらい浸透しつつあるように感じている。また行事などの出し物や、演技を考える際にも保育方針に沿ったものになるように、取り組むことができている。ただし、園の目指す幼児の姿のイメージが少し弱い。
2	指導計画の作成と評価	自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	A	毎日の反省は週案に記録しており、毎月末にその月の反省点を同じ学年の保育者の前で発表して共有することになっている。園全体を見た場合、保育の充実に図る為にどうしても週案作成時に予定を一杯に入れてしまいがちになっており、予定外の事が入ると時間の余裕がなくなりがちである。次年度以降は少し時間に余裕を持たせることも検討すべきと考えている。教育要領について教師間で話し合いが不十分などところがある。
3	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	活動全般を通してみると、音楽や造形・体育など、全身を使って行う活動を、週のカリキュラムの中に多数組み込んでおり、その他にも泥遊びや絵の具遊びなどの、感触遊びも積極的に取り入れている。また園庭の遊具や室内の自由遊びの物品などの配置にも気を使っており、子どもが興味や関心に応じて、好きな遊びができるよう、様々な配慮のもと環境構成を行っている。

平成 24 年度 学校評価  
結果公表シート

学校法人廣瀬学園  
東よさみ幼稚園

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況
4	教育環境の構成	B	毎月 2 回のペースで、異年齢保育（ファミリー保育）を行っている。年長の子どもになると年下の学年の部屋に行き、トイレや階段などを自然に手伝ってあげたりする姿を見かけるなど取り組みの成果が現れていると考えている。身近な自然、社会との取り組みに欠けるところがある。又、異文化との交流等の整備が少し欠けている。
5	研修・研究への取り組み	B	外部研修としては、様々な研修会の案内を教職員に提示して、その中から各自自らの意思で参加している。また研修で勉強した内容などを、終礼で発表したり、資料の回覧なども行っている。また園内研修としても音楽や絵画の講師を招いたり、公開保育を行ったりと積極的に取り組んでいるが、活発な発言について欠けるところがある。
6	安全管理体制の整備	A	救急救命の研修は年に 1 度実施し、全員が受講するようにしている。また避難訓練も定期的に行っている。今年度は時間や場所を決めず、予告無しでの火災避難訓練を行い、とっさの判断ができるように意識を高めた。その他の事項として来園者への園内立入証の着用や、地震対策として飲料水・食品の備蓄を少しづつしている。緊急放送受信ラジオの有効活用が不十分である。
7	衛生管理体制の整備	A	子どもたちに関しては、来園時のうがい、手洗いを徹底しており、保護者や外部からの来園者にもご協力いただいている。園内の要所に空気清浄機を設置するなどの取り組みも行っている。今年度は嘔吐時の対応方法をまとめ、全員に配布しマニュアルの徹底にも努めた。
8	地域の人々、自然との関わり	B	地域の人々との関わりとしては、近隣の小学校との交流や、老人ホームへの訪問を行っており、年長組は敬老会への賛助出演も実施している。また地域の方の協力のもと、サツマイモの苗植えと収穫のお手伝いもさせていただくことができた。地域の自然や施設の主な行事等について理解に欠ける部分がある。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の反省は、個々でもしっかりと取り組めており、また学年内での共有もある程度はできている。今後は学年を越えた反省の共有に積極的に取り組むと共に、反省内容や課題などをしっかりと記録に残し、年度末に次の学年で担当することになる先生に、しっかりと情報の引き継ぎができるようにしていきたいと考えている。
2	教育環境の構成	異年齢保育は、東よさみ幼稚園の大きな特徴であり、保護者の方からも多数の喜びの声をいただいております。このような本園の「強み・特徴」の部分である異年齢保育をさらに良いものとする為に様々な取り組みを行っていききたいと考えている。具体的にはクッキングや園外保育など、従来よりも活動の幅を広げることと、意図的に交流させるのではなく、皆が自発的な交流を持てるような指導をしていきたいと考えている。また、ひよこ園の 0、1、2 歳児の交流を意図的に実施するようにしていきたいと考えている。
3	衛生管理体制の整備	安心して子どもを通わせることができるよう、防災対策に注力した。この取り組みに関しては継続的に続けていくとともに、来年度は防犯対策にも注力していきたいと考えている。具体的には危機管理マニュアルの整備と実施を行いたいと考えている。
4	地域との連携	現在も地域の方との交流は積極的に行っているが、これまで以上に地域に根付いた園として今後も積極的に地域との連携・交流を深めていきたいと考えている。具体的には地域行事の情報などを入手して園として参加したり、保護者の方に情報提供できるよう区政だよりなどもチェックしたいと考えている。また従来の交流は私たちが園外に出て行くことが多かったが、今後は地域の方に来園していただく機会を増やしたいと考えているため「夕涼み会、造形展」の宣伝・案内にも力を入れたいと考えている。情報発信を積極的に行い、地域の幼児期の育ちの発信園となるよう考えている。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適性に行われていると判断できる。  
日頃から先生方の一生懸命な姿や、保育に対する姿勢は素晴らしいものだと感じており、この学校評価での反省を活かして、来年度以降さらに良い東よさみ幼稚園、東よさみひよこ園となっていることを期待します。